

異文化を理解し意思を伝え合う 真のコミュニケーション能力を養成

コーパスによる解析で より伝わる表現を修得

私の専門の一つは、コーパス言語学と呼ばれる比較的新しい学問分野です。コーパスとは、新聞や雑誌などの書き言葉や文字に起こした話し言葉を大量に集め、検索や分析ができるようにした言葉のデータベースのこと。そのコーパスを使って、言語がどのように使われているのかを分析するのがコーパス言語学です。インターネット上で膨大な言語情報がやり取りされる現代では、より多くの言語資料を収集して高度な解析を行うことが可能になっています。生きた英語の宝庫ともいえるコーパスは、英語教育や教材開発にも大いに活用されています。グローバル・コミュニケーション学部で私が担当しているいくつかの専門授業においても、必要に応じてコーパスのデータ解析を活用し、状況に合わせた表現・用法の効果的な使い分けなど、実際のコミュニケーションに役立つスキルを分かりやすく教えています。

ホスピタリティ英語に特化 専門教材で語学力を磨く

コーパスを活用し、ホスピタリティ英語の修得にも力を入れています。本学部には航空会社、ホテル、テーマパークなどホスピタリティ業界を志望する学生が多く、学習ニーズが高まっています。そこで、近隣のホスピタリティ関連企業にも協力を仰いで実際に業務で使用している英語表現やお客様の目や耳に触れる英語表現を収集し、実践形式でシチュエーション別に学べる教材を開発。ホスピタリティ業界に必要な英語コミュニケーション能力を磨いています。また、即戦力として活躍できる人材の育成をめざした実践的な教育も特色です。神戸という国際色豊かな土地柄を利用し、神戸近隣のホテルや空港、テーマパークと連携を取って外国語を使用した研修などを取り入れるほか、航空会社との教育連携協定により、将来キャビンアテンダントやグラウンドスタッフをめざす学生のために学内講座や神戸空港での実務体験も用意しています。

動画制作で育む コミュニケーション能力

グローバル・コミュニケーション能力を磨くために私のゼミで取り組んでいるのが、英語でのドラマ制作です。脚本、キャスト、撮影、編集、試写までの全てを学生が行う協同学習型アクティブ・ラーニングとして実施しています。

2・3年次は入門編として、日本のテレビドラマを題材に英語の動画作品を制作。英語のセリフ回しからは英語特有のリズムやイントネーションを身につけることができ、英語表現にふ



卒業プロジェクト「GOOD LACK」制作風景

わしい演技のトレーニングによって表情や身ぶり手ぶりなど言語以外で意思を伝える方法を体得。英語による演技は、英語圏の人々に意図や気持ちを十分に伝えられるコミュニケーション能力の習得にとってよい訓練になります。

4年次には、オリジナル作品に挑戦し、2018年度にはプロの方々の多大な協力も得て短編映画「GOOD LACK」を制作。リアルさを追求するためにあえて日本語で制作し、英語の字幕を付けました。学生たちは英語翻訳を通して、日本語と英語表現の違いや効果的に伝える工夫など多くのことを学びました。このプロジェクトは「県政150周年記念県民連携事業」に採択され、地域の方々の協力を得て、神戸市内で撮影したり、特産品「いかなご」をモチーフに使うなど兵庫・神戸のPRやカンヌ国際映画祭への出品にも挑戦。地域社会に触れて視野を広げる、学生にとって得難い経験になりました。

真のグローバル人材とは、異文化を理解して意思を通じ合わせ、自国の文化・慣習の素晴らしさを伝えることができる人のこと。言語や文化の知識を深める学修とともに、地域社会と触れ合いながら幅広い経験を積むことのできるフィールドを用意して、世界に通用するコミュニケーション能力を備えたグローバル人材を育成したいと思っています。



- ポートアイランドキャンパス
- 法学部 ■経営学部 ■現代社会学部
- グローバル・コミュニケーション学部 ■薬学部
- 有瀬キャンパス
- 経済学部 ■人文学部 ■心理学部
- 総合リハビリテーション学部 ■栄養学部
- 大学院



神戸学院大学

KOBE GAKUIN UNIVERSITY

神戸市中央区港島1-1-3 078-974-1551(代表)

詳しい内容は大学HPで [神戸学院 in Focus](#) 検索